

<参考資料：モデル地区の特性と社会実験（ワークショップ）結果の概要>

3つのモデル地区は、それぞれ地理的特性や災害リスク、社会的特徴など都市内の特徴別に設定した。その特性と3回のワークショップの結果の概要を下表に示す。

表 モデル地区の特性と社会実験（ワークショップ）結果の概要

	有明台小学校区	松浜小学校区	亀田西小学校区
地区の特性	<ul style="list-style-type: none"> ・市中心部に位置 ・住宅地と商業施設が混在する人口密集地 ・昼夜間で人口の変動が大きい 	<ul style="list-style-type: none"> ・阿賀野川と新井郷川の河口に位置し、化学工場などの工業地帯と隣接 ・新潟東港からも近く、外国人居住者が増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・市中心部から離れたベッドタウン ・昔からの地域と新興の地域が共存する ・昼間には、多くの人が地域外に移動する地域
第1回 ワークショップ テーマ： わがまちの安全安心の点検	<ul style="list-style-type: none"> ・有明台小学校区は、新潟市内でも高齢者・単身者の多い地域であり、災害が発生した場合の高齢者対策を中心に議論が進んだ。 ・地域内で、古い建物が多く狭い道も多いことから地震災害に対する不安が多く出され、また、新潟地震の経験から、液状化への不安を話す人も多数いた。 ・地域活動の点からは、アパートや寮に住んでいる人との交流がないことを課題として挙げていた。 ・その他、停電や道路交通など、生活に関連した不安に関する意見が出された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・松浜小学校区は、地域内での標高の高低差が大きく、大雨が降ると高いところから低いところへ一気に水が流れるため、低いところに住んでいる住民の方から、平成10年の8・4水害を例に出して水害が不安であるとの意見が出された。 ・堤防が古くなっているため、津波が一番不安であるとの意見もあった。松浜小学校区は、海と川に囲まれた0m地帯であることをはっきりと認識したほうがよいとの指摘もされた。 ・外国人に関する意見もあり、コミュニケーションをとることが難しいということが課題として挙げられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・亀田西小学校区は、全体的に標高が低く、水害に対して不安を感じる人が多かった。 ・亀田西小学校区は、9～10月にも同様のワークショップを実施していたため、「あいさつをこころがける」、「中学生を地域の活動に巻き込みたい」など地域活動を活性化させるための具体的な議論が進んだ。 ・学校の先生からは、避難所は必ずしも「安全な」場所ではなく、①校舎も体育館も耐震性に関して不安がある、②児童・生徒を安全に下校させることも不安である、③教職員は地域外に居住している人が多く休校日に災害が発生した場合対応できない可能性が高い、という意見が出された。
第2回 ワークショップ テーマ： コミュニティ活性化方策の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・有明台小学校区は、新潟市の中心部近くにあるため事業所が多く、事業所の人たちにも地域のことをしてほしい、企業の所有するビルの屋上に上げてほしい、病院として無料で応急手当講習をできるか、といった意見が出された。 ・地域活動に人を集めるためには、ポイントや景品を出すのがよいとの意見が出されましたが、景品ばかりに目がいかって、安全・安心について地域で考えるという本来の目的を忘れてはいけないという意見も出された。 ・アルビレックス応援やもちつき大会など、それ自体楽しめる活動も多く挙げられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バーベキューで火の始末を子供にやらせ、子供に火の扱い方を教えるなど、防災を前面に出すのではなく、「それ自体が楽しい」イベントにさりげなく防災要素を組み込むのがよいとの意見が出された。 ・松浜地区は新規住民が多いため、自分の故郷や会社などを紹介したり、習字や詩吟など自分の特技を披露する場を設けることが交流の拡大に良いのではないかと意見が出された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園清掃、廃品回収に、学校と地域が共同して実施し、子どもの参加のついでに親にも参加してもらい、参加層を拡大させることができるという意見が出された。 ・中学生に子どもの世話をさせるなど地域の役割を与えることで、中学生を地域活動に巻き込もうという意見が出された。 ・若い人への個別参加依頼は難しいので、部活など若い人の含まれる団体そのものに呼びかけるのがよいという意見が出された。 ・学校内に地域活動の掲示板を置かせてもらい、地域に子どもを呼び込む他、学校の近くに子どもの「たまり場」をつくり、そこに地域が入っていく方法も提案された。 ・亀田製菓など、周辺の企業の工場見学を企画してはどうかとの意見が出された。
第3回 ワークショップ テーマ： 行動計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・防災運動会を参加しやすくして魅力的な企画を盛り込むことで、多世代の参加を促進する ・清掃活動など日常から取り組む活動について、地域や学校などの主体が個別に取り組むのではなく、多様な主体が連携して取り組む。 ・災害記憶の風化を防ぐと共に、地域を知らない人に地域を知ってもらうきっかけづくりとしての地域マップや写真展示会を開催する 	<ul style="list-style-type: none"> ・人が多く集まる祭りや地引網などに、安全安心の要素を取り入れることで、多世代や外国人とのコミュニケーションを図る ・既存の団体の連携により、各団体が有している情報網などを上手に活用し地域のネットワークを強化する ・地域が活動しやすい場所としての学校や公共施設の活用 ・複数のイベントや活動を合同で開催することで、活動主体間の連携・交流を促進したり、新たなリーダーの育成を強化する 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生は地域の宝という認識を持ち、地域と学校が連携を強化することで、地域活動の活性化による安全安心な地域づくりや地域の力を利用した教育などの相乗効果が期待できる ・地域を知ることが安全安心につながるため、企業と連携した地域見学や地域だよりの作成を行う ・情報発信の方法は既存のツールだけでなく、学校などを活用してより多くの人に発信していくことが提案された。

第2回検討委員会 議事要旨

開催日：2009(平成 21) 年1月21日(水)、10:00～12:00

開催場所：都市センターホテル、606会議室

議事：1) 委員長挨拶

2) 第1回検討委員会議事内容の確認

3) 調査の進捗報告

3-1 調査の流れ

3-2 市民アンケート調査結果(速報版)について

3-3 第1回ワークショップ結果について

4) 新潟県防災立県戦略の紹介(田村委員からの情報提供)

5) 「住民力の強化による安全安心なまちづくり新潟モデル」の検討

5-1 新潟市における安全安心なまちづくりの取り組み

5-2 住民力の強化による安全安心なまちづくり新潟モデル骨子

6) 今後の予定、その他

出席者：蓑原委員長、倉田副委員長、石黒委員、片田委員、国崎委員、小松委員、田村委員、山重委員、篠田委員(代理：和田副市長)

オブザーバー(以下敬称略)…高橋(国土交通省都市・地域整備局都市・地域安全課)、西口(同課)、丸茂(同課)、山本(同課)、藤原(警視庁生活安全局生活安全企画課)、田脇(仙台市消防局防災安全部防災安全課)、遠藤(仙台市都市整備局住環境部住環境整備課)、木下(浜松市生活文化部防災対策課)

事務局…佐藤(危機管理監)、伊部(司会)、梅津、土田、小沢、土佐、大旗、植原、阿部、勝田、寺脇、高森、島、加藤、菅原

配布資料：資料1…第1回検討委員会意見要約(案)

資料2…調査の流れ

資料3…市民アンケート調査の結果まとめ(速報版)

資料4…第1回安全安心なまちづくりワークショップ結果

資料5…新潟県防災立県戦略の紹介

資料6…新潟市における安全安心なまちづくりの取り組み

資料7…住民力の強化による安全安心なまちづくり新潟モデル骨子(案)

参考資料1…第1回検討委員会 議事要旨(案)

参考資料2…市民アンケート調査の結果(速報版)

追加資料…住民力の強化による安全安心なまちづくりフォーラム(仮称)について

1. 「新潟県防災立県戦略の紹介」に関する議論の要旨

蓑原： 家の中での防災対策や建物の耐震性改善の取り組みも大事であるが、あまり触れられていな